

【奥の細道】

【】（那須の黒羽といふ所に）

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

那須の黒羽といふ所に知る人あれば、これより野越えにかかりて、直道を行かむとす。はるかに一村を見かけて行くに、雨降り日暮る。農夫の家に一夜を借りて、明くればまた野中を行く。そこに野飼ひの馬あり。草刈る男に嘆き寄れば、野夫といへどもさすがに情け知らぬにはあらず、

「いかがすべきや、されどもこの野は縦横に分かれて、うひうひしき旅人の道踏み違へむ、あやしうはべれば、この馬のとどまる所にて馬を返したまへ。」と貸しはべりぬ。小さき者一人、馬のあと慕ひて走る。一人は小姫にて名をかさねといふ。聞き慣れぬ名の優しかりければ、

かさねとは八重撫子の名なるべし 曾良

やがて人里に至れば、何を鞍つばに結び付けて馬を返しぬ。

（奥の細道）

問一 「草刈る男に嘆き寄れば」とあるが、作者は何をお願いしたのか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア 私の馬を休ませてほしい。

イ もう一晩宿を貸してほしい。

ウ 案内できる少女を探してほしい。

エ 馬をひいて案内してほしい。

オ しばらく雨宿りをさせてほしい。

問二 「あやしう」を現代仮名使いに改め、平仮名で書け。

問三 曾良の詠んだ「かさね」の句はどういう意味か。最も適当なものを次の中から選べ。  
ア かさねとは、少女の名前ではなく、八重撫子の名がふさわしいだろう。  
イ 名をかさねというからには、花にたとえたら八重撫子だろう。  
ウ 花びらの重なった撫子だから、八重撫子というのだろう。  
エ かさねとは、八重撫子の名ではなく、少女の名前であるべきだ。  
オ かさねとは、優雅な八重撫子の名であるにちがいない。

問四 「やがて」とはどういう意味か。最も適当なものを次の中から選べ。  
ア まもなく イ 無事に ウ そのまま  
エ 結局は オ やつとのごとく

(山梨県)

「解答」

問一 エ

問二 あやしゅう

問三 イ

問四 ア